

『消防団員アンケート』

報告書

令和4年2月

寒河江市防災危機管理課

1 調査の目的

消防団は地域防災の中核的存在として活動しているが、団員数の減少や団員の担い手となる世代の人口減少、社会経済情勢の変化など消防団を取り巻く環境は大きく変化しており、今後、団員を確保することが困難になることが予想され、対応できる体制作りを進めていく必要がある。

これらのことを踏まえ、定数見直しや組織改編、消防団活動など時代に即した消防団のあり方を検討するため、本市消防団の現状を把握し検討する基礎資料として全消防団員を対象にアンケート調査を実施した。

2 調査対象

団長、副団長、本部付分団長、本部付音楽隊、女性消防隊を除く全消防団員

分団長・副分団長	16名
部長	37名
班長以下の団員	668名

3 調査方法

一般団員用、部長用、分団長・副分団長用の3種類のアンケート用紙を配布し、調査した。

なお、一般団員用については部長にも配布したため、配布枚数は705枚である。

4 調査期間

令和3年10月6日～令和3年11月15日

5 集計上の注意事項

比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

行事の頻度等についての質問は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しないものとして調査した。

消防団員アンケート集計(一般団員)

配布枚数	回収	未回収
705	424	281

回収率
60.1%

【問1】 あてはまるもの

所属	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団	第6分団	第7分団	第8分団	無回答
	69	55	74	66	42	60	25	28	5

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
	1	60	223	117	19	0	4

職業	会社員	農林業	自営業	公務員	未就労(フリーター含む)	その他	無回答
	305	28	34	37	0	7	13

		回答数	割合
就業地	市内	210	49.5%
	隣接の市外(自宅から30分以内)	58	13.7%
	市外(自宅から30分から1時間)	116	27.4%
	市外(自宅から1時間以上)	15	3.5%
	無回答	25	5.9%

【問2】 消防団活動についてあてはまるもの

(1) 消防団活動にどのくらいの頻度で参加していますか。

	回答数	割合
ほぼ参加している	104	24.5%
できる限り参加している	216	50.9%
たまに参加している	68	16.0%
参加できていない	35	8.3%
無回答	1	0.2%

(2) (1)で「たまに参加している」「参加できていない」に○をつけた場合、その理由は何ですか。(自由記入)

・仕事の都合	45
・家庭の事情	5
・子供	5
・活動が大変。行きたくない	4
・時間が合わない	4
・部長経験者で人数合わせで在籍しているため	4
・市外在住のため	2
・プライベート	2
・人員が足りない時のみ参加している	1
・地域の団体の活動があるため	1
・参加するメリットがない	1

(3) 消防団活動の頻度について

	回答数	割合
多い	215	50.7%
適当である	125	29.5%
少ない	8	1.9%
わからない	45	10.6%
無回答	31	7.3%

(4) 消防団への要望・意見等あれば記入してください。(自由記入)

【消防団活動に関すること】

・活動、行事が多い(不要だと感じる)	35
・拘束時間、待機時間が長い。集合時間が早すぎる	27
・消防以外の活動が多い	5

【人員・組織・報酬等に関すること】

・定数の問題で退団できない	8
・新入団員の確保が困難	8
・幽霊団員に報酬等、退職金を払わないでほしい	5
・幽霊団員の問題	5
・定数を減らしてほしい	4
・定年制を設けてほしい	3
・幹部に不満がある	3
・報酬を個人支給にしてほしい、報酬等の透明化	2

【操法大会に関すること】

・操法大会をなくしてほしい	41
---------------	----

【理由】	・負担が大きい	14
	・実践的でない	10
	・仕事に支障が出る	6
	・団員勧誘にマイナス	3

【問3】 消防団の組織についてあてはまるもの

(1) 部の人数は活動に対して足りていますか。

	回答数	割合
多すぎる	28	6.6%
十分足りている	50	11.8%
やや足りている	40	9.4%
不足している	217	51.2%
わからない	85	20.0%
無回答	4	0.9%

(2) 消防団活動に全く参加しない、参加できない団員が周りにいますか。

	回答数	割合
多数いる	174	41.0%
少数だがいる	169	39.9%
いない	15	3.5%
わからない	64	15.1%
無回答	2	0.5%

(3) 分団・部の統廃合をすべきと思いますか。

	回答数	割合
統廃合すべき	191	45.0%
将来は検討すべき	133	31.4%
必要ない	22	5.2%
わからない	74	17.5%
無回答	4	0.9%

【賛成意見】

・活動に参加する団員が少ない	21
・新入団員が確保できない	17
・地区の人口が減少しているから	16
・組織を縮小し、団員数を削減する	10
・消防署のみで良い	4
・なくして良い	5

【反対意見】

・担当区域が広がり、負担が増える	6
------------------	---

【問4】 消防団の報酬等についてあてはまるもの

(1) 一般団員の報酬額についてどう思いますか。(階級が「団員」の場合、現行は16,800円/年)

	回答数	割合
多い	4	0.9%
適当である	82	19.3%
少ない	241	56.8%
わからない	94	22.2%
無回答	3	0.7%

(2) 災害出動時の手当の金額についてどう思いますか。(現行は一律1,100円/回)

	回答数	割合
多い	4	0.9%
適当である	62	14.6%
少ない	278	65.6%
わからない	76	17.9%
無回答	4	0.9%

【問5】 消防団員の確保についてあてはまるもの

(1) 団員の確保策について有効だと思うもの

(複数回答可)

	回答数
装備や資機材の充実	36
実践的な訓練内容を増やして技術を高める	41
ポンプ操法訓練を軽減する	207
報酬や手当を増額する	270
レクリエーションなどの福利厚生事業の充実	20
団員や家族などの優遇措置	193
その他	62

(自由記入) ⇒ 別紙1

(2) 福利厚生の制度を知っていますか。(福祉共済、公務災害補償、火災共済、退職報償金など)

	回答数	割合
知っている	81	19.1%
少し知っている	100	23.6%
あまり知らない	140	33.0%
全く知らない	90	21.2%
無回答	13	3.1%

【問6】 自由記入

⇒ 別紙2

【問5】消防団の確保について

- (1) 団員の確保策について有効だと思うもの
(自由記入)

【操法大会に関すること】

・負担が大きい操法大会の見直し	12
-----------------	----

【活動に関すること】

・活動(イベント)の縮小	11
・団員の負担軽減	4

【報酬・組織に関すること】

・報酬等を増やす	6
・男女差別なく活動する	1
・定年制や任期を決める	2
・組織改革をする	1

【方法】

・市や町会等と連携した勧誘	4
・出張講話や説明会	2
・イメージアップ広報	2
・活動紹介や活動報告	2

【その他】

・消防団に入るメリットが少ない。
・少子高齢化、若者の都市部流出等、人口が減っているのが難しい。
・基本ボランティアの時点で若い世代は確保できません。
・社会人で18歳以上ならば半強制的に入団してもらおう。
・どんな事をしてでも入団しない人はしない。
・昭和の時代から変わらない考え方や団特有の価値観・体質を変えた方が良い。
・入団手続きがわかりにくい。入団しやすい窓口等を周知すべき。
・教育機関(中学校以上)、公民館行事でポンプ操法を実際に行ってもらい消防団活動に対して理解を深めてもらう。
・福祉共済等の制度が判らない。もっと詳細が分かれば魅力が出ると思う。

問6. 自由記入欄

※回答の中から代表的なものを抜粋

1. 操法大会について

<p>・操法大会が、団員不足や幽霊団員が増えている事や、入団する若者が激減している事の最大の原因です。単なるレクレーション(操法大会、小隊訓練)の為に異常なまでの早朝(AM3:30起床)からの練習、実践で使えない知識の押し売りなど何の為にやっているのかわかりません。 また、一部の人だけに訓練をしても意味がありません。操法大会を廃止して、ポンプの使用方法的講習会を実施するなどの運営のほうが実用的。</p>
<p>・消防団の活動が大会入賞が目的のように思っています。また、大会の為に早朝訓練は仕事に支障をきたす場合あり、その姿を見ている人から「消防団だけは入らない」という声も聞こえます。</p>
<p>・朝活動、練習までする大会や練習会などをやめた方が良い。今の時代、大会などで仕事に影響があり、団員を増やすにも操法大会、練習会に参加出来ないとの事で入らない人が多い。地区内で火事になった際にちゃんと動ける練習などはした方が良かったため、3ヵ月に1回、練習会はした方がいいと思う。大会のタイムなんかを競うより、団員全員が火を消し、ポンプ操作できるよう、考えて欲しい。でないとだれも入らない。</p>
<p>・地域防災の重要性はとても理解できますし、その為のポンプ操法や巡回などは必要かと思えます。ただ、操法大会までする必要はあるのか、この時代に軍隊の様な規律まで求めるべきか、このあたりに疑問を感じます。</p>
<p>・操法訓練の内容を見直すべきだと思います。もっと簡単に、だれでも簡単に覚えられるように。操法の細かいところが覚えきれず、そのため基本的な操法も出来ていないことが問題だと思います。</p>
<p>・操法大会の朝練習で寝不足となり、居眠り運転等が心配である。過度の朝練習は体調管理不可能であり、仕事に支障をきたす。</p>
<p>・私は、部長経験し、現在平団員です。操法大会も出場しました。指導部の選手に対する厳し過ぎる発言、行動も見てきました。私はいい経験をし、今に生きています。しかし、現在の若い世代は「ゆとり」です。訓練は有事の際に重要ですが、これまで通りの厳しさだけでは消防活動に参加しなくなります。操法大会の有り方、訓練等、また合併も検討して頂きたいです。とにかく人手不足です。※3ヶ月間週3～5日4:30～6:00の朝練→今の時代ありえないと思います。</p>
<p>・操法大会のシューズ代等は部の活動費から出している。お金がかかりすぎるので大会は不要。</p>

2. 組織・報酬について

①団員の確保について

<p>・団員の勧誘について、自治体から直接郵送物で勧誘してもらおうなど、更なる対応をお願いし、団員の負担を軽減して頂きたい。</p>
<p>・人口が減る中で新規に団員を集めるのは困難である。団員数や組織のあり方について考えるべきと思う。</p>
<p>・人員確保が分団、部に負担がかかりすぎている。人口減少の中で、市、地域での協力がなければ、今後、存続は難しくなると思う。統廃合も含めて、現団員の負担軽減を検討いただくと助かります。</p>
<p>・現在当分団では、多数の部長経験者が一般団員になり活動している実態を市では把握しているのでしょうか？私が在籍している部でも定員の22名中10名が部長経験者という実態です。他の部も同様で定員の半数以上が部長経験者で構成されている部もあります。団員勧誘も行っておりますが、そもそも若い人が市外に出てしまっている事と交代制勤務、土日祝日が勤務の若い人が増えており入団してもらえない現状です。この様な現状について市及び消防団としての対策、対応を早急に実施していただきたいと思っております。このままでは欠員が出て強制退団する者も出てしまう恐れもあり事態は緊急を要する事と思っております。そもそも消防団の昭和からの風習と仕事のスタイルが現在の若者にマッチしているとは思えません。昔の様に強制的に入団させることも出来ず、本当に困っています。報酬額が上がっても入団してもらえないと思います。</p>
<p>・町会ごとの団員数の一覧を公表して各町会に危機感を持ってもらい、参加しそうな若者を積極的に紹介してもらおう。</p>
<p>・報酬面だけでなく、消防団でできることとできない(しない)ことを明確にして、安全面もPRしないと本人も家族も不安が残る新入団員の勧誘は難しくなると思います。</p>

②退団について

- ・退団時期の基準、その資格の明確化、分団や部任せではなく、市や消防協会の考え方(いったい、いつまでさせるのでしょうか?)をお尋ねしたい。
- ・定員を満足していないとやめられないため、定員をなくしてほしい。
- ・退団方法を明確に示すべき。
- ・団員数の削減を行い、分団の団員(年配の方)が卒業できるようにしてほしい。このままでは80代でも消防団をやっているかもしれないと、絶望しております。

③活動に参加できない団員について

- ・消防活動に参加したがる団員が多い反面、活動に必要な人数があるため部長等(その上の方々)の人数集めが大変です。活動を縮小してください。
- ・幽霊団員が多く、ポンプ点検、操法訓練等を真面目に参加している少人数の団員で行わなければならず、負担が大きすぎる。
- ・まじめに参加している団員に報酬(特に退職金)がいくようにすべき。幽霊団員と同じでは納得がいかない。

④報酬等について

- ・報酬、手当はUPすべき。年5万円、1回5千円とか
- ・団員報酬以外に部の活動経費が必要
- ・報酬等についても見直しが必要。仕事中に火災が発生した場合、外出した時間の時給や精勤手当が出ない企業も多く、収入面でダメージが大きい場合がある。個人差はあるが、時給に見合った出勤手当は必要だと思う。
- ・時間給にすべきでは。小火(ボヤ)と夜通しの番では心身ともに負担が異なる。

3. 活動について

①行事について(出初式・春季演習等)

- ・活動内容、ポジションの役割をマニュアル化しベテランから新人までわかりやすく伝える取組を行ってほしい。
- ・春の演習や出初式を行うのは賛成です。しかしながら式典前の内演習では休憩が多かったりして無駄な時間が多いように思います。火災現場ではスムーズで無駄のない効率的な動きが必要とされているはず。ダラダラと時間をかけるのではなく効率よく短時間で練習できるように仕切ってほしいです。
- ・出初式や操法大会等の形式的な行事が多い。集合時間が必要以上に早かったり、長い待機時間がある。
- ・春季演習は規模を縮小し(空操法は無くすなど)行った方が良い(年度がわりの為)。逆に火事(有事)の際の動きの確認やポンプの扱い方などの練習を取り入れた方が良い。色々変えて行かないと消防団に入る若者がいなくなってしまう。
- ・行事(操法大会、出初式、春季演習など)ばかり多く、実務に即する機会がほぼ無く、団の活動が極めて形式的で中身がない。休日がつぶれるだけで不満。

②その他活動について

- ・予防消防やポンプ操作について、基礎知識の不足があると思います。講習等で補う形はあっても良いと思います。(何のため? どういう構造? など考えずに活動するのは意味がうすいと思う)
- ・分団持ち回りの芋煮会、新年会等は時代遅れだと思う。
- ・春秋の火災予防週間がありますが、朝と夜を防災無線で広報し負担を減らしてください。月2回ある広報は車両やポンプの点検に必要ですが、仕事などで人の集まりが悪く1人で行う場合があります。他にも改善できる部分があると思います。
- ・火災時等に求められる操作や知識を身につけるための研修や火災予防に直接つながる活動など、必要最低限の活動だけにしてほしい。
- 市の催しに消防団の動員はおかしい。イベントなど。
- 消火活動という事で、いざという時のため、操法訓練等を行っていますが、人命救助という事で、救助活動の訓練もあった方がいいと思います。(AEDの使い方や心臓マッサージ方の講習など)
- ・有事の際、自宅付近に不在の団員も多く、出勤から放水には時間がかかります。
- ・火災予防週間のチラシは町内会で配布して欲しい。

4. その他意見

- ・ニュースで山形県の消防団が問題になった記事があります。また、飲み会の問題など消防団が悪いイメージしかありません。
- ・もっと団員の声を大事にしてほしいです。
- ・団員の候補となる方よりも、その親・家族の理解度を高めることの方が大切だと思います。”消防団とは? 入ったら大変でないのか? ボランティアには興味がない。何がメリットで、何が楽しいのか?”等疑問点や解消すべき点をしっかりと消防団組織で考えなければならないと思う。現団員が楽しくない、意味がない、面倒だと思っている事から解消すべきです。
- 消防団組織として今後も地域にとって必要な組織だと思っているが、団員の高齢化も含めて時代に合わせて変化していかなければいけないと思う。社会でも「働き方改革」があるように消防団にも「活動改革」が必要だと思います。個人の負担軽減はもちろん、まずは若者の地元コミュニティを再構築するために、時間的束縛を軽減してほしい。消防団活動中は準公務員と言われるが、仕事より優先するのは違うと思う。生活するためには、まず、仕事しなければいけないし、何よりその人の選択を優先してよいと思う。「何人集める!」的なのは、ますます不参加率を上げていると思います。
- ・ポンプの使い方、ホースの巻き方、ポンプの操法の方法を写真付きの文書かDVDを全団員に配布希望
- ・アンケートの結果、それを基にして今後どのような変化、変更するか教えて下さい。
- ・多様化している職業において、土日休みとは限らず、又、勤務時間も固定ではないので全員が活動に参加できるわけではない。
- ・賞状や記章いらないです。
- ・マスコミ報道等で、消防団への偏見、バッシング等が散見されています。世論が消防団を必要としているのならば、国をあげての団員の地位向上、不要と考えるのであれば廃止もやむをえないのではと思っています。団に所属する立場ではありますが、存在意義に疑問を感じています。
- ・準公務員という社会的立場を内外に再認知してもらい促しをしたうえで生活地域と職場地域の協力や編成を考えて欲しい。
- ・今の若い方は、自身の仕事やプライベートを重視し、地域のコミュニティに参加することを必要としていません。その中で、確保策を充実させても現状は変わらないと考えます。

消防団員アンケート集計(部長)

対象:寒河江市消防団 部長37名

1. 消防団活動について

(1) 団員の参加率はどの程度か

	回答数	割合
2割以下	3	8.1%
2割～4割	16	43.2%
4割～6割	15	40.5%
8割以上	3	8.1%

(2) 消防団活動の頻度について

	回答数	割合
多い	26	70.3%
適当である	9	24.3%
少ない	0	0.0%
わからない	2	5.4%

(3) 消防団への要望、意見、不満等(自由記載)

	回答数
操法大会・訓練の見直し、廃止	8
人員確保の問題、定数が多すぎる	4
行事の軽減	5
活動に参加しない団員の問題	2
イベント警備などの不満	1
幹部の態度、言葉使いに不満	1

2. 消防団の組織について

(1) 部の人数は活動に対して足りているか

	回答数	割合
多すぎる	5	13.5%
十分足りている	5	13.5%
やや足りている	4	10.8%
不足している	22	59.5%
わからない	1	2.7%

(2) 部の定員数は足りているか

	回答数	割合
多すぎる	12	32.4%
十分足りている	8	21.6%
やや足りている	5	13.5%
不足している	8	21.6%
わからない	4	10.8%

(3) 消防団活動に全く参加しない、できない団員は部内にいるか

	回答数	割合
多数いる	20	54.1%
少数だがいる	15	40.5%
いない	2	5.4%
わからない	0	0.0%

(4)分団・部の統廃合をすべきか

	回答数	割合
統廃合すべき	10	27.0%
将来は検討すべき	25	67.6%
必要ない	1	2.7%
わからない	1	2.7%

具体的に(自由記載)

	回答数
分団・部の数を減らすべき	7
団員の確保が困難だ	8

3. 消防団報酬等について

(1)報酬等を個人に支払った場合に発生する問題などはあるか

	回答数	割合
ある	31	83.8%
ない	3	8.1%
わからない	3	8.1%

具体的に(自由記載)

	回答数
参加する団員、しない団員の不公平感	18
部の活動費が不足する	5
保険料等の集金が困難	9
懇親が図れなくなる	1

(2)地区から協力金等を受け取っているか

	回答数	割合
受け取っている	28	75.7%
受け取っていない	9	24.3%

(3)部の活動資金として年間どのくらい必要か

～20万円	13
～40万円	7
～60万円	6
～80万円	5
無回答	6

※操法大会の有無で20～30万円程度の増減あり

(4)部の活動資金はどのように確保しているか(自由記載)

地区からの協力費
ほとんどの部で団員から了解を得て団員報酬を部の活動費に充てている。

4. 自由記入欄

別紙のとおり

問4. 自由記入欄

回答
<p>・団員の加入については、若年者が地域からいなくなっている現状から、地域内で調整することが難しくなっている。ジリ貧の状態である。新興住宅や人口が増えている所から準強制的に入るようにする仕組みでも作らないと、人数を維持はできないと思う。これができないなら縮小すべき。</p> <p>・団員数を減らしつつ、不要な行事、イベントを減らし、最低限必要な活動のみにするように改善すべきである。団員の負担は多くなる一方だと思う。現在まじめに活動している団員も減少する一方なので早急に対応をお願いしたい。</p> <p>自主防災会等との住み分けについても調整をお願いしたい。</p> <p>・個人口座への振込になるのなら、年間の保険料など金額がわかっている場合は、二度手間になるので、予め引いた上で振り込んでほしい。</p> <p>・今の時代に合っていないと思う。</p> <p>・活動のわりに安い。</p> <p>・操法大会があつた時の部の負担が大きすぎる(人員的に)</p> <p>・仕事のパターンが増えた(夜勤など人が集まりづらい)</p> <p>・新入団員の確保がとにかく困難</p> <p>・消防団員の勤務先から、消防団の活動が理解されづらいので、消防団員の被雇用者がいる事業所に対して減税や報奨金等の支援策を実施してほしい。</p> <p>・寒河江市内への転入者を対象として、消防団への入団を勧めてほしい。</p> <p>・消防報酬、出勤報償費、満額支給してほしい。</p> <p>・2交代制、3交代制、長距離トラックドライバー、介護士等、不規則な仕事をしている団員や結婚や勤務先近くに転出する団員は、月2回の点検日や消防団の行事、操法大会、小隊訓練の朝練や夜練になかなか参加できにくい状況である。その為、団員間でわだかまりが生じる恐れがある。</p> <p>・操法大会でなく各部参加の操法確認会にした方が技術向上になると思う。</p> <p>・昔からですが自分が辞める時、代わりの人を探せないため残留している方も多くなります。定数を減らすか、統廃合を希望します。</p> <p>・消防協会の建物の協力金、どうして消防団員だけなのか団員から質問がありました。国の建物なら一部の国民が負担するはおかしいのではないかと言われました。</p> <p>・操法大会の朝練、停止間、行進間の朝練は団員への負担が大きい。やる必要はあるのか？会社勤めの人が多く、大変だという声が多い。</p> <p>・大会や演習などは必要ない。</p> <p>・消防団に加入してくれる人がなかなかおらず、やめられない。</p> <p>・消防団は活動が多く、とても大変だというイメージがあり、若い人にも加入してもらえない。</p> <p>・個人に報酬を支払った場合、まず、いつも来ている人はやる気をなくすと思います。</p> <p>・いろんな事情で来れないかもしれませんが、こっちは会社に相談し、休みをもらったり仕事の途中で抜けたりして消防団活動をしています。</p> <p>報酬はいままで通り部に入れてもらうのが一番だと思います。参加していないのに、報酬を受け取るのはいかがだと思います。</p> <p>・勧誘をしに自宅に行くと本人と話をさせてもらえず、仕事大変だからと言われ会わせてもらえませんでした。正直、将来的に消防団を続けて行くのが難しいと思います。やる気もうせてます。</p> <p>・誘っても家族に断られる。</p> <p>・防災は大切だが、行事ばかり大切にして普段の訓練がおろそかと感じる。</p> <p>・コロナで行事が少なくちょうどいい</p> <p>・人が少なすぎて毎回来る人の負担が大きい</p> <p>・入団してのメリットが少ない</p> <p>・操法を少なくしてほしい</p> <p>・イベントが多すぎる</p> <p>・活動費の個人支給については本来ではそうあるべきだと思うが、いざそうなれば、幽霊団員の多い部は大変な思いをすることになると思う。</p> <p>・幽霊団員が多く、新入団員もなかなかいないので在団員の負担が大きくなっているの、定員を削減させるか、統廃合を真剣に考えるべき。</p> <p>・操法大会の必要性を考えるべきだと思う。ボランティアでそこまでする必要はないのではないかな。</p> <p>・団歴が20年を超える団員もおりますが、新規入団がなく、若年層も少ないため辞められない状況です。</p> <p>・1日と15日の活動日に参加する団員が大体5名程度で、参加する・しないが団員でも分かれているのが現状です。</p> <p>・消防団を減らし、署員を増やすべきだと思う。</p> <p>・なぜ、人口の少ない地区の団員が多いのか不明。若い人がそもそもいない。</p> <p>・現実的に火事が起きても、シフト制の仕事や市外の人々が多く現場へ向かえない。</p> <p>・新聞等で話題となっている報酬の件だけでなく、特定の人頼りになっている消防団の状況に目を向けてほしい。</p> <p>・操法大会の負担が大きい。休みの日に全体で数回のみで充分。それより、団員会員が経験できるよう、いろんな曜日や時間帯で講習をしてほしい。一定の人の技術向上の場となっているが、その人達が火事に向かえとは限らない。</p> <p>分団長、副分団長の負担が重すぎて、誰もなりたくない。報酬も少なすぎて赤字になっていると聞く。せめて報酬は多くあげてください。</p> <p>また、一番の負担は操法大会の練習。毎年大変すぎると思います。このままでは、自分の子供を消防団には入れたくない。</p> <p>地域を守っていくというのは理解できるが、古い風習、考えを捨てなければ若い団員なんかは絶対に増えない！</p> <p>消防団活動、まずは操法大会の見直しを早急をお願いします。</p> <p>・本当にやる気のある人のみを募集して、少数精悦の消防団にすべき。もちろん、高額な報酬を支払ってですが。</p> <p>・消防会館建設の寄付金等は、分団や部に求めないでほしい。</p> <p>・定員が決まっているため、新入団員が入らないと退団できない。そもそも地域に人が減っていて、新入団員がいない。</p> <p>・オリンピック、祭り、花火等の、国・市のイベントの警備は消防団の活動ですか？</p> <p>・連日コロナウイルスのニュースをやっている中、消防で集団行動をする意味が今はあるのですか？それと、もし消防の行事に参加してコロナウイルスに感染した場合は消防でどのような補償してくれるのか、きちんと用紙に書いてもらいたい。</p>

- ・2-(1)について、参加率が低いことを前提として、決して定数の人数が不足している訳ではないです。
- ・3-(3)について、団員のモチベーション向上のために必要な飲食代や被服代を含む。

・消防団活動を継続しやすい環境を整える必要があると考える。(アンケート結果を反映してください)

①若者が消防団に加入しない。

活動内容に魅力がないからではないか。演習、操法大会など実際の活動(目的・役割)に関係のない行事が多すぎる。また、演習のため練習などで休日が拘束されている。

※消火一救助活動、避難誘導などが実際の活動目的である。地域での防御訓練が重要。演習、操法、出初式は必要ない。(何の為にやっているのかわからない。地域のためになっていない)

②団員が定数確保のため退団できない。

結果、消防団に加入したことで休日が拘束されるなどの不利益が長期化し、不満が蓄積。周りの人にも影響を与え「消防団に加入したい」という人が減少(というかいないです)悪循環のスパイラルにおちいつている現状。

対応策:定数を減らし、適当に退団できる体制にする。必要のない(必須ではない)行事を辞め、本来の活動(地域の防御訓練)を充実。

・操法大会を廃止して欲しい

・消火栓の使い方がわからないので、講習や訓練が必要だと思う。

・火災等の出動手当が少なすぎる(命の危険や会社を有給で休んで来てくれる人がいるので)

2-(1)について、参加団員が不足している。

・このアンケートのタイミングが遅すぎる。

・団員報酬、個人払いにする前にすべきだった。

・市が消防団の実態を把握していない。もしくは把握しても見て見ぬふり、他市町村で問題になったから、保身の為にとった行動でしょうか？

・実活動団員は予防消防、また有事の際に精力的に活動しています。彼らのやる気をそぐような取り決めや消防活動以外の負担が増えない様、お願いします。

・操法大会は不要。団員がほぼ会社員の中、負担が多すぎる上、一部の団員で支えられているため。しかも、ありえない想定・準備の上の練習を長期間行い、4人or8人のみが操法を身に付けることに疑問。

・少なくとも、自動車部にある大型ポンプ車より、「軽トラック+水タンク+噴霧機」の方が山火事対策として有用。本署からの道路網がしっかりし、全ての部に軽積載車が一台以上ある昨今、「現行の自動車部」は不要と考える。

・いわゆる「接待」の幹部研修会は不要

・昨年よりのコロナ禍におけるイベント開催の有無の連絡が遅すぎる。「他の市町村の様子を見ながら」などではなく、独自に早期決定して頂きたい。

・メインの仕事を疎かにしてまで操法大会をする事は受け入れることは出来ません。実際、操法をしたくないので幽霊団員になった方もいるので、人員確保の為と団員の高齢化を考えると、直ちに統廃合と操法大会の廃止と幽霊団員を無くし、無駄に税金を使ってほしくない。

・活動資金については、50万と記入しましたが、今までと同じで問題ないと思うが、正当な理由がある場合の設備投資を積極的にしてほしい(空気清浄機、エアコン、テレビなど)

今後のコロナ対策の為、各部にインターネット回線とWebカメラを支給して頂いて、Web会議ができるようにしてほしいです。

前に戻りますが、操法大会を無くすだけでは意味がないので、そのかわりに、防災訓練(山火事を想定して訓練)などはした事がない、または少ないので、実践的な訓練を増やしていくべきだと思う。

1-(1)について、毎回同じメンバーしか集まらない(4~6人)

・統廃合してほしい。

・団員が確保できない。

・市の大会など無くし、実際に火事現場で役に立つような事をしたほうがよい(何の為にしているのか分からない)

・幽霊団員が多く、一人一人の負担が大きく、大変です。

・ほとんどの部員が部長経験者である。また、部員の年齢層も高い。そのため部長経験者が再度部長を務めることは負担が大きい。来年度の休部も視野に入れている。子どもの数も減っており、定員に満たないの目に見えているので、部の早期再編を望む。

・支部操法や市の操法が大会のための動きになっており、実際の現場で役に立たない。数ヶ月にわたり早朝に訓練するが仕事に支障も出た。研修会などに方法を変えて、実際の火事で使える訓練としてほしい。

・春の演習の表彰で、立ったり座ったりが多く、礼式が非効率に感じる。表彰時間も短くした方がいい。

・神輿の祭典の警備を消防団で担当する理由が分からない。消防団員にも神輿会の会員がいるので、地域の行事に参加できない事になる。神輿以外にも、防火・防災に関わらない行事に参加させられることがあり、本来の業務からかけ離れた負担が多い。

・消防団は有事の際、例えば火事では本署の一助となり、地域を守る役割を果たす組織というのが本質・原点だと思う。その本質に立ちかえて、負担の少なく、役に立つ組織に生まれ変わってほしい。

・3-(2)について、部として受け取っていない。分団から毎年数万円受け取る

・市消防団の行事について、火災の予防・消防に本当に必要な訓練等に限定して欲しいと思います。特に操法大会の訓練については、ある程度は必要な技術かと思いますが、実際の現場ではまったく必要性が感じられません(動作など)。また、訓練の負担が大きすぎると思います。

レクリエーション大会等も不要と思います。

・今まで定員の確保ということで名前だけの人がいて、活動に全く参加しなくても、5年以上で退職金等を受取っている人がいるため、協力してもらっている。団員に示しがつがなく、不平等感がある。

・分団長等の任期について、分団長4年、副分団長4年は長すぎる。次期候補者の選出を困難にしている。トータルで4年にしてもらえるといいと思います。

・分団の構成について、再検討が必要だと思います。戸数・人口が減っているところは、定員の確保が厳しい状況です。

・活動資金とは、どの範囲までの資金なのか、具体的にわかりません。消防団活動に参加する為に必要な最低限の費用なのですか？

・大きな行事には仕事を休んだりして参加してくれる団員もいます。人数確保が困難な時、何度もお願いして参加してもらったり心苦しくなる時もあるので、定員・参加人数が不足する時はどう対応していいか悩みます。

・3-(3)、(4)に関しては、団員報酬で、活動後に飲み会等の慰労や、活動中の食事等で還元している為、具体的な金額は明記出来ない。団員のモチベーション維持のためにも、報酬アップを強く望む所である。

消防団アンケート集計表(幹部)

1. 消防団活動の内容、頻度、改善すべき点について ※順不同

(1) 春季消防演習について		(2) 出初式について	
現状	意見	現状	意見
指揮班、交通誘導員を出す事も現状厳しい状況。団員数減少にともない、小隊訓練、腕用ポンプも同様	・腕用ポンプ、小隊訓練が当たると人員の確保が難しい。	指揮班、交通誘導員を出す事も現状厳しい状況。団員数減少にともない、小隊訓練、腕用ポンプも同様	・腕用ポンプ、小隊訓練が当たると人員の確保が難しい。
団員も何とか参加するよう各自都合を調整してくれている姿勢が見える。演習自体はまだいいが、小隊訓練が当たった時にどれだけの団員が必要になるか心配な部分もある。	今年度のような規模を縮小した形を通常の形にしてもらえると大分負担は減るのと思う。実際には開催できなかったのだからわかりませんが・・・。	春季演習同様、団員は参加してくれるよう努めてくれている。腕用ポンプ操作が当たったときに必要人数が集まるか心配。	
年々、実参加者は減少傾向にある。しかし、演習は団員も大事にする気持ちが感じられる行事。	これまで、時間の短縮など、変更してきている。今後、更に短縮が可能な部分があれば参加者も増えてくのではないと思う。	演習同様、参加者の減少はあるが、求められる人員が少ないことから目立って少ないと感じる事はないと思う。	開催時期が、団員の気持が消防に向きにくいのではと思う。年が明けてプライベートを含む全ての事に全力という状態にないと思われる。
毎年参加人数の確保が大変だが、各部の協力で参加出来ている。内演習と本演習が同時になった事で負担も少なく感じる。	内演習と本演習の間がありすぎるので(休み時間)、内演習の開始時間をおくらせても良いのではと思う。	同日に分団新年会がある為、人員の調整は大変だが、中身については問題無いと思う。	近年、市役所駐車場のアスファルトがはがれたり、いたんでいる所が多く、訓練や腕用ポンプ操作等の安全面を考えると修理してほしい。
・例年の参加人数について、約50人程度(多い時で+10人) ・内演習(午前中)と演習(午後)、1日で終わるのが良いという反面、長時間となり簡略化してほしいという意見もある。	・陵東中→中央通り→文化センターという移動がある為、間延びしていると思う。(ダラダラしてしまう)本署前等で分列行進が出来ればと思う。	・例年の参加人数は演習と同様で約50人程度	・冬季間で雪がある為、編上げ半長靴がぬれてしまう。長靴を支給してもらいたいという意見がある。
・内演習と本演習が1日で終わる様になった事は良いと思う。	・カラ操法、小隊訓練のイベントが本当に必要なか疑問。	・あたりまえだが、寒い。体の負担が大きい。 ・来賓あいさつの人数が多い。 ・参加団員が少ない。	・インナーの支給があれば良いと思う。
年々参加団員の確保が厳しくなっている。団員報酬を頂けるようになって少し回復してきたと思う。新入団員が少なくなっている現状、特に部長が終わり、一般団員に戻った団員の参加が減ってきている。	以前よりも拘束時間が減ったため、良くなっているように思う。団員の負担が減り、参加する団員も良くなったとの声がたくさんあるので、現状のままで良いと思う。	拘束時間が短い参加団員の確保は難しくなった。役割分担表の管理ができていて、滞りなく遂行できている。	腕用ポンプ、一斉放水時の水槽の位置が毎年曖昧なので、はっきりわかるように何らかの方法を取ってほしい。
参加する団員が減少しており、団員の確保が難しい。部長が終わり一般団員になった方も減少している。	時間が短縮したので、団員への負担が少ないと思う。	演習に比べ参加団員は多く、団員の確保は難しくはない。	
春季消防演習と出初式は二大イベントとして周知しており、この二つのイベントに関しては、各部で団員を集めなければならないという意識が見られる。	春季消防演習は朝から1日ばかりなので、団員からは時間短縮できないかとの声がある。	春季消防演習と同様に、出初式は二大イベントとして周知しており、この二つのイベントに関しては、各部で団員を集めなければならないという意識が見られる。	出初式は午前中で終了するせいか、団員からは特段要望はない。腕用ポンプ操作も前向きな団員が多いと感じる。
参加団員が少なく正直人員を集めるのが厳しい	演習も大事だと思うが、演習の代わりが出来るのであれば訓練などにした方がいいと思う。	春季演習と同じで参加人数が少ない。	演習と同様
毎年、地区の行事と重なり団員を集めるのに苦労する。	例えば、午前中で終わる様なタイムスケジュールであれば団員を集めるのに苦労しないと思う。	毎年、予定通りの人数の団員に参加してもらっている。	寒い中での活動となるため、もう少し簡素化してもらえると良いと思う。
出席者はどの部もおおよそ固定化されており、部によっては出席率が低い所も散見される。様々な業種の方々が編成されている組織のため、仕事の都合やその他の地域行事等(春のお祭り)で都合がつかない場合もあるようで、出席できる団員の確保が難しい部があるようだ。	現在は以前であれば内演習を含めた2日間に渡り実施していたところを1日にまとめた状況になっている。ただ、地域行事や子供の部活動等、様々な役割の負担のかかる年代が多く集まる消防団で、丸1日かかるイベントは大きな負担になっているのかもしれない。団員からは「待機時間が長い」との話も聞いているので、事業全体の省略化や早朝に集合し、全般的にスムーズに運行することで内演習も含めて昼まで終了するなど、団員の負担を軽減する新たな取組みが必要かと思われる。	半日で終了する事業であるためか、比較的出席率が良く思えるが、冬季に実施するため、体調不良等、身体的な負担が気になる。	団員の負担軽減のため、周囲の市町の動向も踏まえて事業の中止も検討する時期に差し掛かっているようにも感じる。
年々参加団員も減少しています。仕事等の都合もあると思う、団員への負担もあると思う。	小隊訓練は廃止にして、空操法のみで訓練が良いと思う。他の支部は小隊訓練は実施していないと聞いている。	各部に最低参加団員の人数を指示している、それなりの団員は集まっていると思う。	腕用ポンプ操作を廃止にして、記念放水のみにして良いのではと思う。
・自動車部の人数が集まらない。 ・小隊毎に並ぶが、第1大隊からの横ずれがひどい。	・小隊訓練がいらぬ。(普段使うことがない為) ・各小隊毎にラインを引いて横ずれをなくしてほしい。 ・待ち時間が長い、多い。 ・内演習1回やって本演習をすれば時間がかかり短縮できる。	・腕用ポンプに当たると、人員の確保が難しい。	・腕用ポンプのお披露目はなくし、紹介だけでいいと思う。 ・分列行進は春にも行うので出初式でなくともいい。(記念放水のみ行う)
やはり小隊訓練があたると一番最低限人数そろわなければ出来ない訓練なので、頭数でもそろえるくらい人数が集まればいいが厳しい状況。			
参加できる団員数が減少傾向にあり、人数集めに苦労している。	・腕用ポンプ、小隊訓練が当たると人員の確保が難しい。 ・前回、前々回は内演習で時間があまっていたので、開始を遅くする、あるいは本演習も含めて午前中で終わる日程にしてはどうか。 ・内演習では指揮班の仕事があまりなく基本的に見ているだけのため、前日の準備をやめて、内演習中に会場準備をしてはどうか。	春季演習と同様。	

1. 消防団活動の内容、頻度、改善すべき点について ※順不同

(3) 操法大会、操法訓練について		(4) ポンプ管理、広報、行事の警戒警備等の活動について	
現状	意見	現状	意見
仕事の都合もあってか、選手になる人が限られてしまっている。また訓練に参加できる団員が少ない。	肯定的な団員もいるが、否定的な団員もいる。実際の火災現場などでの団員が事故、怪我しないためにも、とても大切な訓練だと思う。	点検日の広報、ポンプの点検はしっかり行っていると思うが、ポンプについて詳しい団員が減っていると思う。	正しいポンプの管理方法、操作方法、ポンプの原理などを学ぶ機会があればいいと思う。
西村山支部操法大会に出場した際、日々の訓練は非常に大変だったが、その時感じた団結感や達成感はかけがえないものになったと思う。ただ、出場隊以外のメンバーも含む分団全団員からの多くの協力が必要で、数ヶ月間早朝や休日の時間をこの事業に対応する必要があり多くの団員への負担を強いることとなった。	後述しますが、団員確保の面からはこの事業の負担軽減が最も必要かと思う。(競争方式から認定会方式にする検討など)	毎月1、15日に点検日として集会の上、道具の点検と防災の広報を実施している。予防消防の取組みは非常に大事だと思う。その他各地区の行事やお祭りなどの協力もしており、その他花火大会の警備や長生園との防災訓練、地元自主防災会と連携した防災事業の開催等、地元との関係性が深いと思う。	年々、区や地域住民からの協力要望が多くなり、団員への負担が増えている。この事業については地域住民の興味や関心が増えてきている取り組みだと思うので、従来操法訓練や演習に入れてきた力をこういった地元との取り組みに分散していくことで地元住民との円滑な関係性を築くことができると思う。
西村山支部操法大会は8年に一度、市の操法大会は2年に一度行われているが、新入団員の減少や県外移住等の理由で、市の操法大会においては毎回出場しなくてはならない団員がいる。	少子化の影響と県外移住者等により、新入団員を確保するのが難しくなってきたと感じる。当分団の自動車部においては、前回出場した選手のうち数人がまた出場しなくてはならない可能性もあり、他の部との混合チームでの出場も考えなくてはならないところまで来ている。		
年齢層が上がり、体力的に厳しい。ケガの心配もある。	操法訓練はいいが、大会の為にやるのは違うと思う。	ポンプ管理と広報はいいが、行事での警備が多くなって団員から不満が出ている。	
分団全体でカバーしながら操法訓練に取り組んでいる。早朝の訓練になる為、新入団員には特に強制的にならないよう、気を配ってはいる。大会に向けての訓練の取り組み方は今後も試行錯誤が必要となる。	分団内でも、操法についての必要性を教えてきたつもりではいたのですが、若い団員には伝わり切れない所がある。どのように伝えていくべきなのか、と日々悩んでいる。	ポンプ管理については、1日・15日以外でも気が付いたらすぐに対応できる体制を作っている。問題点は、二班ポンプ庫の老朽化。協力を得られる地区とそうでない地区がある為、今後の課題になりそう。	
早朝からの訓練が主となることから、団員への負担は大きい。各部、部長を中心に参加団員の確保を行っている。	これまで経験してきた団員は参加できているが、入団1～2年の団員については大会・訓練への参加が少ないため、分団内でも可能な限り何回かの訓練を行う必要があると思われる。	ポンプの管理については、2班ポンプのバッテリーの交換が多く、管理については、月に2回以上点検を行う必要がある。	
・操法大会時は、当分団は朝練をしている。 ・選手、応援団員も含め、人数の確保に苦慮している。	・団員の勤務先の理解が必要	・1日、15日については当番表等を作り、各部で上手に回している様だ。	活動に関しては協力して、しっかりやってくれている。
・朝練をしているが、団員確保が各部悩んでいる所です。	・インナーの支給があれば良いと思う。	・各部連絡し合って回してやってる様だ。	・今後も協力し合ってほしい。
市操法大会は2隊が参加しているが、十分に練習出来ない。出場部によっては朝と夜も練習している部もある。	各分団、1チームにしてもらい、集中して練習したい。	月2回の点検日で、ポンプ管理、広報は出来ていると思う。分団でキャラバンの活動は、行っているので問題無く活動している。	
2隊出場しているが、人員確保が出来なくなってきた。	各分団1隊のみの出場でもいいのでは。	・特になし	・小型ポンプのバッテリーがあがった際、バッテリー引換券なのか、業者対応なのかの一覧表を作成し、各分団に渡してほしい。
時の大会に向け、分団、部が1つになって取り組んでいる。しかし、今後を考えると人員への不安は大きくある。	様々なライフスタイルの団員が増えて、これまでのようなスケジュールの訓練が困難になると共に若い団員のモチベーション低下の一因が操法にあると思う。頻度を下げるなどの措置も必要な時期にきているのではないかと感じている。	私が団員だったころに比べ、ポンプの管理や広報が弱くなっていると感じる。指導はしているものの効果をだせていない。	非常に大事な部分だと思うので、分団、部での指導はこれまでより力を入れて取り組む。班長になる前の中堅部員向けの講習会など、啓発を目的としたものを取り入れて団の行事としていただけると助かります。
朝の練習の参加人数確保が大変。特に市外に勤めている団員も多く参加出来ない日もあり、中にはうそをついてまで参加しない団員も出てきている。	・会社によっては消防活動と違い、操法大会等で遅刻やケガの為に業務出来ない時は保証がうけられないようだ。また、勝ちにこだわる大会の為、選手も力が入りやすく仕事と両立が大変なので、大会の内容をスピードを意識せずに正確な動作確認の操法が出来るような合同研修会が良いのではと思う。	月2回、各部で行っています。また、春と秋に防火水槽の水確認もしている。各町会と協力出来る行事には参加している。	
市の操法大会だと部で出ているが支部操法の時だけ各部関係なく混合で出場ではと多数話が上がりました。		毎月広報時にポンプを始動させ点検を行い確認しポンプ管理をしている。	
・さくらんぼ収穫の主力になっている団員も多く、例年通りの練習日程は負担が大きい。 ・上記の理由により、開催日が前倒しになったものの、練習日程の前倒しは困難。	・本署が入ったの練習を週2程度にする等の負担軽減が必要ではないか。(勝つための練習ではなく最後まで操法をするための練習)	割当を決めて広報を行っているものの、実際は部長、代理辺りが中心となって行っている。	消防団として必要な活動であるため、活動報酬の対象としてはどうか。
今年、分団独自で2回操法訓練を実施。	操法に関しては、どんどん行うべき。昨年、今年していないので来年は特に。	実施	今まで通りで問題ないかと。
市、支部ともに、操法大会に対する意識は高い分団だと思うので出場することに対して不安は無い。支部操法の練習については昨年、今年と全く経験が無いので、大変なんだろうな...というイメージしか無い。		ポンプ管理の意識が甘いと思う。自分もその中で育ってきたが、他の分団で行っている内容も参考にしながら今後どう変えていくか考えているところ。	警戒警備については今も他分団より少ない人数の割り当てになっているところもあるが、団員数に対する人数で割り当ててもらえると負担は減ると思う。

2. 消防団員の確保策、組織の現状、活性化策について ※順不同

(1) 団員の確保策、活性化策について		(2) 団員の参加状況、定数、確保状況について	
現状	意見	現状	意見
・各部、団員確保に困っている様です。 ・町内会等の協力等	・若い団員と一緒に連れて勧誘にしている様です。	・例年、定数の±1~2人 ・部長職が終わったあと、団員にもどり確保できるまで在籍している様です。	現在の装備品等を考えると定数をもう少し減らしても良いと思う。但し、ピラ配り等は大変になると思う。 ・全員が集まる事は不可能。
・部長が終わり、団員に落ちると参加率が落ちる。	・同級生同士、誘い合って入団してほしい。	・仕事の職種がさまざま。夜勤等もある。 ・定数自体が多く、昔の様に子供が5人、6人いる家庭はない。現代に合った定数があると思	
消防団のなり手不足に苦労している。そもそも若い人材が少ない状況。町会長さんから紹介してもらって団員の確保に動いているが、難しい状況に変わりのない。	人口減少が進む今の状況では、今いる団員をどう定着させるかの方が重要だと思う。実習や操法などの行事的なものよりも、実践的な活動を充実させていく事で団員が「自分は必要とされている」と感じてくれるのではないかと思う。	分団全体として、定数の50%程度が実動数。部で声を掛け参加者増への取組みをしてきているが、効果が出ていない。	実動数に合わせて定数を減らしていく事も検討いただきたい。参加しない団員が多くいる事で不公平感が出ている。
情報が少ない為、各町会長にお願いして町内の方々に協力を呼びかけている。また、親の反対で本人と接触出来ない時は、町会長の方から声をかけてもらったり、同行をお願いしている。新入団員不足の為、現団員が退団出来ない状況が続いている。	部によってばらつきがあり、定員確保がむずかしいので、定員数を変えるか、または、行政側より各町会長へ世帯数に合わせた団員数を決め、呼びかけてほしい。有事のみの参加(活動)を原則として退団者(OB)を入れてはどうでしょうか？	若い団員の参加は少しずつ増えて来たが、子供がいる世代の団員が子供の行事や部活等と日時がかぶり、参加率が悪い。	
当地区では、少子化と県外移住等により、団員確保が難しくなっている状況。また、近年は団員が勧誘に訪問すると、親から入団を断られるケースが目立っている。理由としては、あまり地区の方々と交流したくないから、関わりが面倒だからという理由だと思われる。(関わり希薄化)	団員の確保策としては、団員が新入団員の勧誘をコツコツと行うしかないと思っている。しかしながら、上記の理由により、当分団はここ数年新入団員の確保ができない状況。活性化策としても、一番は懇親会で親睦を深めることがよいと思っているが、今の若者はアルコールを飲まない方が増えており、団員の活性化策としても難しい現状。	消防団に入団後県外移住等により地元にはいない団員が多くなってきている。(約3割~4割の団員が寒河江市外へ移住)そんな中ですが、春季演習をはじめ様々なイベントにはできる限り団員を集めてもらい、参加してもらっている。	イベントには、毎回同じ団員が参加している傾向が見られる。
新入団員がなかなか入ってこない。勧誘できる若い人もいない。	分団統合でもしないと厳しい。	団員の半分が参加出来てはいない	定員数が地区の人口に合っていない。確保できる人もいない。
本人に会えない。特に問題なのは親が反対する事です。本人と話す前に親の方から断られるケースが最近では多い。	各分団毎、地域と密着して、訓練等を行い、アピールしていく他ないと思う。消防団は日々どのような活動をしているのか分からない人が多いので、町内会単位での巻き込みが必要。	依然厳しい状況です。定数を減らしたことで参加率は上がった。他の分団も同じだとは思いますが、部長を終えて退団待ちの団員が多いのに対して、新入団員が少ないので、部長年数を長く取ったりしている。	今後さらに定数を減らしていくのもやむなしと思う。行事、火災出動についても、主要メンバーはほぼ同じで分団内でカバーしながらになっている現状。
団員の確保策については、入団を打診するお宅が多く団員の確保が難しい。	各部が地域に密着して消防団員の必要性を知ってもらう事が必要であると思われる。	毎年新入団員の確保が難しい為、現在の団員に負担がある。定数が少なくなったことで、参加団員の確保を頑張ってもらっています。	
最近では、新入団員の確保が難しく、若い人の入団がない。年齢層も高くなってきている。その反面ベテランの方が増えて来ているので助かっている部分もある。	案としては、もっと入団した方に、メリットをつける事だと思う。入団祝いとか、魅力のある事をもっと取り入れて欲しい。	参加状況は、それなりに確保出来ていると思う。	定数は減らすべきだと思う。数十年前までは、それで良いと思うが、時代と共に変わって来ていると思う。設備等が充実しているの、定数を今の半分でも良いと思う。
・地元に残っていない。残っていても仕事を理由に断られる。	・消防団に入った時のメリットを増やす。	・比較的参加はしてもらっているが、部によって集まらない。	・定数が多い。定数の削減、部の統合をするべきだと思う。 ・管轄面積は広いが、1~2つの部を減らしても充分です。
新入団員を確保したいのだが候補者がいるのに断られたり、若者がなかなか地域にいる状況をしないことが多い。		各行事に参加してくれる団員は、ほぼ同じ顔ぶれでもっと集まってほしいのにこれない。人員確保したいが人はいない。幽霊団員が多く、幽霊団員を切って、いる人数でこなし、どうしても言う時は、その時は部関係なしで望んでいく方がいいかと思う。	
新入団員が少なく、団員数の減少や高齢化が進んでいる。	ボランティアとして人数を確保することは難しいと思われる。参加報酬の大幅な引き上げ等参加することがメリットとなるような制度が必要だと思う。	行事等に参加しているのは毎回顔ぶれは違いますが、定数の半分程度。実際は部長が終わった後ほとんど来ない人もいるため、全員が定期的に参加している訳ではない。	各行事だけでなく、操法の練習等についても出動の対象にってもらえれば積極的に参加する習慣がつくと思う。
確保する人がいない。若い人そのものが地元にはいない。人がいないので、入団してもらっても、一人一人の負担が大きい。	二部二班制では限界	確保したい人がいない。定数確保は厳しい。参加は決まっている人だけ。	二部二班制では限界
そもそも勧誘できる年代がない(特に2部2班)定数を割っている状況が数年続いているが、幽霊団員を切ったことで数字で見えるようになり定数に対する人員の少なさに焦りは有る。	将来的に分団の統合、または定数の見直しを考えてもらいたい。定数が減ったとしたら、先に記入した小隊訓練や腕用ポンプにも影響が出るのは間違いないと思う。	活動への参加状況はまずまずだと思っているが、やはりそもそもの人数が少ないのでいつもギリギリな状況。	上で意見したとおりです。演習や出初式で分団として整列する以外のところに人を取られるのはキツイです。(ジープ運転手、団旗護衛、標員など)
若い方がいる家を教えてもらうなど後援会にも協力してもらい、団員の勧誘をしていく。地域、地区民からの期待が大きく、団員(部長)が大変そう。		行事、訓練に参加している団員は毎回同じになっている。定数は足りていない。ほぼ参加できていない団員もいる。	消防以外の行事は減らしてもらいたい。定数の見直しは必要だと思う。
新入団員の確保はどの部も苦労している。話を聞くと消防団員は酒席が多かったり、土日・早朝での活動が大変だったというイメージが強く、団員になりたがらない人が多い。特に近年は親御さんの理解が得られず、対象者とあわせられないことが多い。	左記の現状は非常に残念。やはり操法大会の大変さが伝わり、入団の足かせになっているように感じる。 個人的に消防団という組織は、地域同士のつながりが希薄になりつつある近年において、非常に貴重で強力な「地域住民の若者のコミュニケーションの場」であると思っている。地元自主防災会との防災訓練などを重視する等、消防団活動がプラスイメージになるような取組にシフトチェンジしていくべきと思う。	現在複数の部で定数が確保できておらず、参加状況も固定されている。	真面目に参加した人が損をしないように、事業の見直しを進めるなど、団員の負担を軽減していったほうが良いと思う。